

令和５年度 第４回堺市立図書館協議会	
令和６年２月２９日（木）１３時３０分～	
堺市立中央図書館 １階 集会室	
委員	中川幾郎委員、井関美季委員、久野和子委員、 是住久美子委員（リモート参加）、西村ゆかり委員、 松原茂樹委員、山尾真弓委員、吉原極委員
欠席	仲村敬委員、米澤昭子委員
事務局	浦部中央図書館長、南中央図書館参事、有澤中央図書館総務課長、 松好中央図書館総務課長補佐、江口中図書館長、杉本東図書館長、 佐久間西図書館長、三藤南図書館長、眞鍋北図書館長、田中美原図書館長、 白川主幹兼図書館サービス係長、輔信企画情報係長、山本管理係長、 稲野企画情報係員、田代企画情報係員
傍聴	５人
案件	・ 令和５年度 堺市立図書館サービス評価について
その他	・ 令和６年度予算（案）について ・ 令和５年度議会報告について ・ 令和５年度図書館利用者アンケート結果報告について ・ コンビニ返却取次試行実施結果報告について ・ 堺市子ども読書活動推進計画の改定について

署名委員の決定	
西村委員 松原委員	

第３回協議会で委員からでた質問への回答	
発言者	内容
会長	事務局に回答を求める。
事務局	次年度以降のサービス評価、図書館概要の構成、研修について説明。

案件について	
発言者	内容
会長	事務局に説明を求める。

事務局	令和５年度 堺市立図書館サービス評価について説明。
会長	全館にわたって説明していただいた。ここから各委員からの意見をいただきたい。
委員	分館に関しての報告は何かあるか。
事務局	分館の活動内容については各区域館の項目に含めている。分館における所在館方式の取組については、梅分館、美木多分館、初芝分館、東百舌鳥分館で実施しており、利用者アンケートの蔵書に関する満足度も向上している。堺市駅前分館は分館としての規模が大きく、夜間も開館していることもあり分館における所在館方式の取組は行っていない。
委員	中区の職員室文庫の目的は教職員支援ということでよろしいか。
事務局	教職員支援のニーズを把握するために実施している。今後アンケートを実施し、検証する予定である。
委員	職員室文庫、とても素晴らしい取組だと思うが、学校には学校図書館があるので、資料整備・環境整備等、学校図書館の活用につながることを大きな目標に取り組んでいただきたい。
事務局	中図書館は、教職員に対する支援を行う教育センターの中に入っている。そのため中図書館が教職員向け支援を特化して行っている。
委員	令和５年度の図書館サービス評価案について。美原区の令和５年度の来館者数が令和４年度に比べて減少している。堺区、中区、西区、美原区はほぼ横ばいか減少傾向にある。増加しているのは南区、東区、北区で、これらは区域館が駅近にあるからだと思う。特に南区は 134.3 パーセントの伸び率であり、理由を聞きたい。また、減少している堺区、中区、西区、美原区は区域館が駅から遠いという立地的に不利な点をどう乗り越えて利用者を増やすのか、考えていることがあれば教えていただきたい。
事務局	統計上の南区の来館者数は南図書館、梅分館、美木多分館の合算値となっている。増加した要因についてははっきりとはわからない。
委員	PTA に関してという点で発言するが、南区は保護者や子ども、高齢者の熱量が高い。それが来館者数に反映されているのではないか。他に考えられる原因はあるか。
事務局	南図書館にはホールや集会室、学習席があり、利用された方が閲覧室に立ち寄る場合がある。また、梅分館は梅文化会館の中にあるので、そちら

	の利用者が母分館に立ち寄ることも考えられる。貸出には結びついていないが、来館者数に影響していることは考えられる。
委員	さきほどの話と関連して、私は青少年のニーズが影響しているのではないと思う。西区では、2 階ラーニングスペースの利用者数の増加が 4 階図書館閲覧室の利用に結び付いていない。今度計画する際にはどう連携させるかが課題だと思う。2 階の利用が増えているとのことだが、テスト前が多いのか。4 階に上がるというのは肌感覚としてどの程度か。
事務局	テスト期間中、受験前、夏休みなど 2 階は満席になる。席を借りる際は貸出カードを提示してもらい、利用時間の管理を行っている。貸出カード作成は 4 階図書館閲覧室で行っているが、そこで初めてカードを作成しても、資料を借りずに 2 階に降りてしまうことが多い。そのため 2 階の利用申込時に渡す利用時間を書いた札に QR コードを付け、図書館 HP 掲載のブックリストなどを見ることができるよう工夫している。2 階を利用する目的で来館したついでに 4 階で本を借りる子どももいるが、2 階と 4 階をどう連携させていくのが今後の課題と考える。 来館者数は肌感覚としてはそこまで減少している感じではない。数値としては来館者数よりも一人当たりの貸出冊数が減っていることに注目している。50 代以上は減少していないが、特に 30 代、40 代が減少しており、どの年齢層をターゲットにするか検討する必要がある。西図書館としては登録者数が著しく増加した 10 歳代、20 歳代に対して何か手を打つのが効果的かと考える。
委員	QR コードは面白い取組なので、サービス評価に記載したほうが良い。
委員	堺区取組について見ると、図書館全体で取り組んだことも堺区の中に書かれている。ホームページ、コンビニエンスストアでの返却利用のことが堺区取組として書かれている。コンビニエンスストアの返却場所は北区 2 か所、西区 1 か所だったと記憶しているが、なぜ堺区取組として書かれているのか。また、他区の図書館は地域との連携が重要視されており、中央図書館も実施していると思うが、堺区取組には書かれていない。私は堺市子ども文庫連絡会の代表として参加しているが、子ども読書活動推進の一環として、5 月に図書館まつりをしたことや、11 月に堺区ふれあいまつりに手伝いで参加したことが記載されていない。記入する場所がな

	いというのも均等ではない。中央図書館だけが子ども室と一般室でフロアが分かれているのに、子ども室の取組が見えてこないのが残念に思う。構成を見直す際に、中央図書館としての取組と、堺区としての地域との連携に関する取組を分けて記載していただきたい。
事務局	コンビニ返却事業については、返却場所は北区と西区であったが発案や集計等は中央図書館で行ったため、中央図書館の取組として記載している。全体として見えにくさはあったため、来年度の参考とさせていただく。
委員	図書館サービス評価の指標について一点意見する。それぞれの館の目標設定をされていると思う。それぞれの事業の目的があって、それがどの程度達成されたかがわかる指標には、参加人数等アウトプットの数もあるが、アウトカムのようなものがあるといい。抽象的な書き方になっているので、次の目標を考える際は、どのような指標や測定方法があるのかを考えていただくと、数値も取りやすいものになると思う。
事務局	令和 6 年度の目標設定、評価項目についてご相談させていただきたく、ご意見があれば賜りたい。
会長	資料 3-2 は未完成だと思うが、中央図書館と各区別の図書館の役割分担について全く書いていないので、中央図書館の役割や目標、各区の図書館の位置づけを明確にしていきたい。 本編について、協働の視点は入っているが、連携の視点に誤解している箇所がある。具体的には、関係機関との連携を協働と誤解している。市民及び市民団体とは協働、企業（関係機関）とは連携を行う。ここのコンセプトを峻別して書いていただきたい。協働の記載のないところもあった。 また、以前にも申し上げたが図書館行政における住民自治と団体自治を仕分け、図書館概要等作成する際は、住民自治の位置づけを前に出し、重視していただきたい。協働がどのように上手く運んでいけるかは課題ではないか。 また、各区の課題にエビデンスがない。職員の熟練からくる単なる推察という風にしか思えない。その課題についてのエビデンスとなるデータを用意してほしい。不登校が多い地域や貧困が拡大しつつある地域といったものがあると思う。そういった外部環境からくる、図書館の使命というもの科学的な裏付けを各館で作ってほしい。このままでは担当者の直感的

	な思い込みで書いているに過ぎないなと感じる。 社会教育の言葉でいうと、必要課題と要求課題をどのように把握するかということになるが、参加者の満足度を追求するとポピュリズムになりかねない。そうではなく、いわゆるソーシャルマイノリティに当たる人たちに対する事業というのも見落とすことなく課題の中に入れておく必要があるのではないのか、といった視点で課題の洗い出しをしていただきたい。
事務局	挙げいただいた課題については、次年度の図書館概要や評価項目、目標に反映させていただく。

その他	
発言者	内容
会長	事務局から説明を求める。
事務局	令和 6 年度図書館予算について報告。
事務局	令和 5 年度堺市議会における質疑答弁および来館者アンケート結果について報告。
会長	以上の報告について質問、意見はあるか。
委員	予算について、来年度の建設計画はどのような工事か。
事務局	中央図書館の屋上防水改修工事の設計と西図書館の外壁改修にかかる工事の設計の 2 件を予定している。
会長	事務局から説明を求める。
事務局	コンビニエンスストア連携の結果について報告。
会長	以上の報告について質問、意見はあるか。
委員	とても良い取組だと思うが、勤務先の授業で他市の同様の事例を紹介したところ、学生からの反応は「司書以外に本を見られたくない」といった個人情報に関する否定的な意見が多かった。返却ポストであれば少しは安心するのではないか。
委員	この件については堺市 PTA 協議会で周知したところ、保護者世代なので 40 代、50 代からの反応だが、この事業で初めて図書館を利用した人

	が何人もいて高評価だった。堺市 PTA 協議会でも今後実施してほしいとの意見が多数で、南海や JR の駅との連携も考えられないかといった意見もあった。とても高評価であった。
委員	返却の実験検証データだったが、貸出サービスについても技術的に十分可能である。見すえておいたほうがいいのではないかなと思う。
会長	事務局から説明を求める。
事務局	子ども読書活動推進計画について説明。
会長	大きな改定箇所について説明を求める。
事務局	デジタル化への対応と、子どもの視点の導入について取り入れる予定である。基本的な考え方は変わらない。
会長	以上の説明について質問、意見はあるか。
委員	子どもの読書活動は学校園だけではなく、家庭地域も含めて学校があり、その先に公立の図書館への読書活動への移行というのが最終的なゴールになってほしいと思っている。PTA や地域と連携できていない学校は読書活動や本に触れる機会を確保するのが難しいと感じる。図書館では、PTA や地域が連携している学校の数についてどの程度把握しているのか。堺区だけでもお聞きしたい。
事務局	統計的に把握はできていない。学校を巡回する機会があるが、網羅的に巡回するわけではないので、巡回できた学校については、その年度の状況について把握できる程度となっている。
会長	資料 8-2 は国が作った資料か。それとも堺市が作った資料か。
事務局	資料 8-2 は国が作った資料で、資料 8-1 は堺市が作った資料である。
会長	資料 8-2 について、国は市町村を「地域」と定義しているが、これは誤りである。地域というのは、住民が構成する地域社会であり、これについては峻別していただきたい。主体中心の地域の中に図書館が入っている。図書館と地域が一体になってやるとなっているが、その一体性が確保されている地域はどの程度あるのか。それを国は見えていないからこのような書き方になるのであろう。連携の推進と書かれているが、そこで連携・協働するパートナーはどこなのだろうといったときに、ボランティアというのが出てきている。ボランティア団体あるいは市民広域活動団体となるのだが、その明確な位置付けを今度の計画ですべきだと思う。ボラ

	ンティア団体はつまり図書館を支える、あるいは図書館のパートナーシップになりうる市民活動団体とは何をさすのかということを今計画の中で明確にしたほうがいい。具体的な団体名称を定める必要はない。そうしないと、例えば学校におけるコミュニティスクール制度の中でそれがどのように扱われるのかに関する図書館行政当局からの希望がはっきりしない。コミュニティスクール制度、これは地域と連携する必要がある、図書館に関しては、図書館を支えるパートナーとしての住民団体あるいは住民ボランティア団体の位置づけを射程に入れた話し合いをしなければならない。なので、地域、学校、協働活動の推進、コミュニティスクールとの一体的な推進と書いているが、これを具体的プログラムに結ぶための明確な記述をお願いしたい。
委員	資料 8-1 が堺市作成の資料で、これからの取組というのが今後の方針という認識でよろしいか。ここに書いてある成果が、平成 16 年 3 月に作成した成果の上に書かれているが、これをもとに考えていくということか。
事務局	この資料は、現行の子ども読書活動推進計画概要なので、今はこの形で、この理念のもとに取り組んでいる。多様な児童に対応する読書活動の推進やデジタル化、子どもの意見を積極的に取り入れた取組というものができていないため、これからそういうところを肝に、より具体的な取組が推進するような計画にして参りたい。
委員	取組方針は素晴らしいが、実態としては少子化が進んでおり、ボランティアをする母数が減ってきている。また、経済の低迷で保護者に余裕がなくなってきたことや、新型コロナウイルスの流行により社会教育団体の活動自体がなくなってしまった。また、大阪府教育委員の会議で、大阪府は小 6 と中 3 の不読率がワースト 1 位、ワースト 2 位という結果が出ている。今後の取組というところで、家庭教育もままならない家庭が多く、本を読みたくても読めない、読み聞かせたくてもできない家庭もある中、そこを救うのが図書館であり、我々ボランティアだと思うので、理念にそういった取組もお願いしたい。 先日、教育懇談会でフリースクールも含めた読書、いじめ、不登校について対策を考えているということだった。フリースクールよりも図書館の

	活用をということで、連携できていないのではないかと指摘したが、市教委の中で図書館との連携はあるということだった。いじめ、不登校で学校に行けない子どもが図書館に行くことで、本に触れて学力も上がっていくという統計も出ている。今後不登校についても別途ご相談させていただくかもしれない。 参考になるかわからないが、堺市議会が実施している子どもの市議会のように、堺市PTA協議会でも小学6年生、5年生と中学生を代表に選び、子ども目線で議論してもらおうと思っている。図書館も子ども目線で考えると、学校図書館、市立図書館に関して何か言いたいことがあるのではないかと。議案の用意は必要だが、図書館について子ども目線が出る意見は、これからの社会にとっても、とても貴重な意見だと思うので、ぜひこちらでも考えていただきたい。
委員	各図書館の取組状況について、とても読みづらかった。各区のイベントや役割、重要な取組といったものを一覧表の形にさせていただいて、実際の項目、データ等内容を把握してから読めるようにお願いしたい。 西図書館で「古い資料を廃棄して」と説明があったが、誤解を招くと思う。古い資料であっても貴重な資料や全集であれば廃棄はしない。「収集基準、収集方針に則って」という形で、廃棄基準に合ったものを廃棄するとした書き方のほうが、誤解が少なく済むのではないかと。
委員	資料3-1について、ここには、「新型コロナウイルス流行による減少後、回復傾向にある」とだけ書かれているが、コロナ流行前とコロナ流行中、コロナ流行明けの数値を出していただいて、図書館の役割や利用の傾向がどのように変化しているのかをまとめたほうが分かりやすいのではないと思う。 読書推進のことだが、国の計画には読書バリアフリー法という言葉が何度も出てくるが、堺市はどこにも記載されていない。ぜひ取り入れていただきたい。中央図書館はすぐそばに支援学校や障害者センターがある。実際に障害のある人たちが、どのような読書への不満を抱えているか、どのようなサービスが必要なのかを知っていただきたい。
会長	障害者サービスについて事務局からの説明を求める。件数は図書館概要に載っているので、内訳を整理して分析すればいい材料となるのではない

	か。
事務局	今回の資料は、図書館サービス評価全体の前半部分がない状態である。そこで経過や分析を入れる予定。近隣の障害者施設については、お話を聞きに行かせていただいたり、見学に行ったりしている。来年度はもう少し大きい規模で見学に行くことで調整している。
委員	学校園への支援について、団体貸出のことだが、堺市では年間で配送日や締切日が決まっている。学校の先生方が授業の計画を立て、欲しい本を考えたとしても、期日が決められているのであれば、クラス数が多い場合は計画を立てにくい。期間の見直し等の検討はされているか。
事務局	基本的に学校の規模、クラス数に応じて団体貸出の上限が決まるので、大きい学校にはそれに応じて本を貸出している。配送に関しては予算を組んで実施しているので、配送計画の変更や、回数を増やすのは現状難しい。
会長	全体を通して気づいたことを申し上げるので参考にさせていただきたい。 一つ目は、図書館概要の書き方についてレファレンスに関するデータをもう少し詳しく記載していただきたい。単なる貸出数を競う図書館ではなく、社会課題と太刀打ちする、市民の課題、研究課題を応援する図書館のイメージをもっと出したほうがよい。レファレンスの数は多いが、内訳がさっぱりわからないというのはもったいない。それを出すことで司書の社会的機能、役割を市民にPRすることになると思うのでぜひともお願いしたい。 もう一つは、住民自治の担い手である、子ども文庫連絡会や家庭文庫、図書館ボランティアの方々の活動をもっと客観的に把握して表に出していただきたい。単なる連携、協議の事業の数を出すのではなく、団体との話し合いであるとか、連携、協議の機会をもっていることを数値的に出していただきたい。その一つの仕上げが図書館協議会になればいいと考えている。市民との協働について、客体化する努力をしていただきたい。 さらに申し上げたいのは、要求課題と必要課題に関して、要求課題に引きずられがちなポピュリズム図書館というものに対する一定の歯止めを加えるために、公立図書館というのは国会図書館のような国家機関ではなく市民の機関であることを、図書館概要の中にはっきり書き加えていただきたい。そのためには市民と一緒に図書館を育てていかなければならな

	い。必要課題をどのように市民と一緒にリサーチ、把握しそこに定着させていくか。そのプロセスについて各館ごとにどう考えているかを記載していただきたい。今のところは図書館司書の直感によってなされているという辛いプロセスがあると思う。時間的に貧困な人、経済的に貧困な人、社会関係的に貧困な人、あるいは身体的貧困、それかられっきとした障害を持っているとか、在留外国人で言語的に困難であるとか、そういうカテゴリを押さえて、カテゴリに対してどのように図書館が対処しているかを明記した図書館概要を作成していただきたい。それぞれに対応した政策評価ができるような目標数値を設定したらどうか。是住委員がおっしゃった評価指標のあり方の問題にもつながると思う。単純なポピュリズムの指標でいうと、貸出冊数、来館者数、登録人数が増えたらいいということになるが、それだけでは評価しないという姿勢を出さないと単なる貸本屋で終わってしまう。そういうことを今年度の図書館概要や評価指標の中に反映させる努力をしていただきたい。 それから、現在置かれている位置づけを書かれるときに、エリアに沿った書き方、つまり区の人口、平均所帯の構成人数、高齢化率、少子化率あるいは商業地域か工業地域か、他の自治体の持っているデータから読めるはず。そういう意味では SWOT 分析をされるべきだと考える。蔵書数が圧倒的に足りないだとか、蔵書数は多いが専門書は不足しているだとか、細かいことを書く必要はないが分析されるべきである。また、高齢化が進行している、公害が多発している、環境汚染が甚だしい、あるいは平均所得が急に下がってきている等外部危機と、強み、弱み、機会というのをかみ合わせた戦略に関する記述が欲しい。もう少し厳しい自己評価を出していただきたい。 取組状況をみて、皆さん頑張っていると思う。決してそれを否定するわけではない。ただ、その努力をもっと光の当たらないところまで向けてほしい。量的に苦勞するということばかりを追いかけて、質的にもこれから目を向けていただきたい。 以上で本会における案件は、すべて終了とする。
	案件終了
	閉会